

# インドネシアにバネ工場

## 車・バイク向け 顧客進出に対応

### 五光発條

バネ製造の五光発條(横浜市、村井秀敏社長)はインドネシアに進出する。約2億円を投じて新工場を建設し、2014年9月の操業開始を目指す。同社の海外生産拠点は3カ国目で、受注先の相次ぐ海外進出に対応する。東南アジアでは中間所得層が増加傾向にあり、現地向け製品の需要も取り込む。海外売上高を5年で14年2月期と比べ60%増の23億円に引き上げる。



東南アジア3カ国に拠点を設ける(タイの工場)

### 地域とアジア

すでに現地法人「ゴゴースプリングインドネシア」を設立。ジャカルタ近郊の工業団地で2階建ての工場の建設を進めている。敷地面積は1130平方メートルで、1階は工場、2階が事務所となる予定。現地採用も含め、ま

ず20人で操業を開始し、19年には120人体制に

拡大させる。

すでに進出済みのタイとベトナムの工場では、プリンターなどの事務用機器やデジタルカメラなど精密機器向けの微細なバネと、自動車・バイク向けのバネを製造している。

インドネシア工場は自動車・バイク向けのバネに特化する。受注先の生産拠点が東南アジアに相次ぎ移転しているほか、東南アジアの所得水準が上昇し、消費地としての

存在感が高まっているのに対応する。日本貿易振興機構(ジェトロ)によると、インドネシアの12年の名目GDPは07年比2倍の約8780億ドルで、増加が続く。

同社はもとも、デジタルカメラやプリンター向けの部品生産が中心。受注先の大手光学機器メーカーが海外に生産拠点を移転するのに合わせ、1991年にタイに工場を開設し、05年にはベトナムにも生産拠点を開

いた。インドネシア工場では、これまで海外工場で培った現地従業員の指導方法などのノウハウを生かす。

同社の14年2月期の海外の売上高は14億円で、全体の7割近くを占める。国内市場が縮小するのを見据え、成長市場の東南アジアでの生産体制を強化する。

日本では横浜市内の本社工場のほか、山梨県に生産拠点を持つ。デジタルカメラやプリンター向

けのバネを供給しているが、国内市場は縮小傾向にあるという。新たな収益の柱を確保するため、国内では付加価値の高い自社製品作りに取り組んでいる。

昨年夏にはクラウドファンディングなどを原資とし、バネをつないで動物を形作る玩具「SPLink(スプリンク)」を開発。同社のホームページのほか、2月ごろから大手量販店でも販売している。